

言葉と文字に精神的な視点を拓いた
漢文学者・白川静さん追悼講演

白川静さんをしのぶ

話し手・鈴木一博

2007年6月16日(土)

19:00~20:30

参加費2,000円

オープンフォーラム早稲田
地下鉄東西線早稲田より徒歩5分

お申し込みは tel, fax または mail にて
参加者氏名・住所・TEL をご連絡下さい。

フォーラム・スリー
tel. 03-5287-4770
fax. 03-5287-4771
info@forum3.com

鈴木一博さん

1951年茨城生まれ。言語造型家。早稲田大学および大学院において政治経済と独文学を学び、ゲーテアナム附属・ことばとドラマの学校を修了。2007年よりNPO法人日本アントロポゾフィー協会理事長。

わたしはその人の仕事のほんの一端を知るだけですが、その一端から受ける恩恵のなんと大きいことでしょうか。
言葉は時折人の知性を超えた賢さを覗かせます。その人の著した『字統』『字訓』は、わたしにとってその賢さへの手引きです。その賢さは、「歴史的なものには、すべて不易と流行の原理が働くものである」(『字統』の序)というように、明晰に、かつ簡潔に言い表されてもいます。
また、同じ原理を宿しつつ『孔子伝』がものされています。それが伝える孔子は、『狂者』(進みて取る者、直なる者)であり、「あらゆる分野で、ノモス的なものに対抗しうるものは、この『狂』のほかにないように思う」(『孔子伝』文庫版あとがき)と述懐されています。
そして、その歴史の原理と「狂」という変革の原理は、そのままアントロポゾフィーに通じています。追悼というはおこがましいですが、その人の精神をわたしなりに訪い(たず)なりたいと思います。

